

第31期 堀尾知樹

我々31期は、3年間で延べ15人以上がラグビー部に籍を置き、一大勢力を構成し、将来を期待される予定であった。

しかし、家庭の事情・進学等といった理由で、一人また一人抜け最後まで楯円球を追い続けたのは、2年生の夏合宿前に参加した変わり者の林、一見温厚そうで非常に短気な鈴木（通称ウマ）、夏合宿ではいつも布団の中にもいた甘えん坊の高橋（通称マサミ）、そして激情家で眼力タックルを特技としている私（堀尾）のたった4人だけであった。特に2年間以上一緒にプレーを続けてきた香川、金谷、後安、佐川達の退部は、非常に残念であった。

我々31期は、先輩たち（29期・30期）が関東大会に出場している時の留守番であり、強い千歳ラグビー部を知っている最後の世代ではないかと思う。

菅沼キャプテンより引き継いだ当初の部員は、14人と少なくナンバーエイトを欠いたチーム構成であった。

いつも黄色いカバンを携えグラウンドに現われた28期の水谷さんを新監督に迎え、厳しい練習が始まった。

新チームの初陣は、昭和49年1月19日（日）丸紅グラウンドでの都立松原戦で、25群同士の戦いであった。

前半にあげたマサミのトライとウマのペナルティーゴールを守りきり、7対0と初陣を飾ることが出来た。しかし、個人プレーの連続でチームとしてのまとまりは全くなく、一抹の不安が残る試合となった。

そして、その不安を抱えたまま27日（日）の新人戦を迎えることとなった。相手は、全国大会の常連で梅木監督の率いる私立目黒高校であった。グラウンドコンディションは、最悪のドロドロ状態でボールも手に着かず、結果は、0対

58と完膚無きまで叩きのめされてしまった。しかし、この戦いの中で唯一みんなが鮮烈な記憶として残っていることは、ハーフライン上でのペナルティーからみんなで考えたサインプレーを敢行し、トライこそできなかったがゴール寸前まで行き、目黒高校の度肝を抜くことが出来たことである。（今でもなお我々の酒の肴になっているプレーである。）

これにより、みんなのチームとしての意識が芽生え、そして我々3年生もチームを引っ張っていく自信を持つことができたと思う。

しかし、2月24日（日）新人戦の第二戦は、都立両国高校で、0対46と引き続き大敗を期してしまい、自分たちの力量の無さを痛感した試合であった。

そして、4月、真面目さが唯一のとりえの32期の下に個性豊かで強者揃いの33期が入部してきた。部員も25名以上になり、ポジション争いもはじまり、チームとして活気が出てきた。

第三戦目は、成城学園との練習試合で4月24日（水）成城学園グラウンドで行われた。スクラムでは成城学園を圧倒したものの、モール・ラック・ラインアウトで劣勢にまわり、3対20という結果に終わってしまった。

第四戦は、関東大会の予選で5月6日（月）の対法政一高戦であった。法政一高のフォワードは大きく、がらが悪く、反則まがいのことをやってきて、特にプロップの三人（高須・林・大池柳）はスクラムで殴られるや蹴られるやと大変な試合だった。前の試合の苦い経験を生かし、フォワードの善戦があり、前半は0対6、後半が10対13であった。この試合では、単純なパックスのキックミスやタックルの甘さが命取りとなり、第一目標の関東大会出場

は夢と消えてしまった。

春の試合を通じて、フォワード・バックスの課題が明確になり、その後の練習に反映させて、OBのサポートを得ながら更に厳しい練習を続けていった。

恒例の夏合宿は、山中湖の福寿荘で例年通り行われ、辛く長い一週間であった。現役よりOBのほうが多く集まり、マンツーマン以上にしごかれた。特に1年生は良くがんばった。「ウオー・ウオー」と泣き叫ぶ者、「チクショー殺してやる」「足がちぎれそうだよ」とわめく者、今思うと凄まじい地獄絵巻だったと思う。……それでもマサミは合宿所の布団の中にいる。

そして、夏合宿の成果を見極めるべく、第五戦は、9月7日(土) 都立富士高校と練習試合を行った。

相手が弱すぎたのか千歳が強くなったのか、62対0と大量得点の完封試合となった。チームプレー・個人プレー全て上手くいった。

第六戦は、春負けている成城学園とのリターンマッチを9月21日(土)に行った。春とは違いフォワード・バックスとも力強い戦いで善戦したものの、二本のインターセプトを決められ0対22とまたもや辛酸をなめる結果となってしまった。しかし、チームとしてのまとまりは更に強まり、全国大会に向けての手応えをつかんだ。

第七戦・第八戦は、文化祭の招待試合となり、9月23日・28日に都立青山・都立千歳が丘に遠征し、20対10、8対4と連勝を飾った。また、千歳の文化祭の招待試合として、専大付属高校を招き試合を行った。記録は残っていないが勝ちをおさめ、「文化祭荒らし」と騒いだものだった。

そして、11月3日(日)日大三高立川グラウンドで我々3年生最後の全国大会の予選が始まった。

第一戦の相手は、都立田園調布で11時にキックオフの笛が鳴った。私を始め、みんながかたくなっておりオフェンスもディフェンスもちぐはぐで、前半は、10対3と辛うじて7点リードしたものの、予断を許さない状況であった。

後半開始早々、田園調布にトライを許しみんなの顔に焦りの色が出てきた。しかし、すぐに千歳のペナルティーゴールが決まると、みんな息を吹き返したように好プレーの連続で2トライをあげ、23対7で勝利を収めることが出来、第一関門を突破した。

翌週10日(日)の相手は、都立の中でも強豪といわれている大泉高校であった。11時大泉高校グラウンドにキックオフの笛が鳴った。先週とは違い、みんな積極的に動き回り、一進一退の攻防が中盤まで続いた。均衡を破ったのは大泉で、千歳の弱点のひとつであったラインアウトからのトライであった。しかし、すぐに菅谷が75ヤードの独走トライを決め、4対4の同点で前半を終わった。

ハーフタイムの時のみんなの顔は、厳しく、絶対負けたくないとの執念がみなぎっていた。しかし、後半、風下にまわり大泉の激しい攻撃を受け続け、みんな懸命に耐えていたが、大泉にラインアウトを突破されトライを許したときから、みんなの緊張の糸が切れた。その後たてつづけにスクラムサイド・バックスラインを次々に突破され、4トライを許し、31期のラグビーが終わった。

ノーサイドの笛が鳴ったとき、我々の目から涙が溢れ出てきた。そして、2年生や1年生の目からも涙が光っていた…。

○昭和48年12月～昭和49年11月までの戦歴

日付	大会名	対戦高	グラウンド	勝敗	スコア
S49.1.19	練習試合	日黒高校	丸紅グラウンド	○	7-0
1.27	49年度新人戦	両国高校	明大グラウンド	●	0-58
2.24	〃	成城学園	〃	●	0-46
4.24	練習試合	千葉東高	成城学園	●	3-20
5.06	関東大会予選一回戦	法政一校	城北高校	●	10-19
9.07	練習試合	富士高校	富士高校	○	62-0
9.21	〃	成城学園	成城学園	●	0-22
9.23	〃	青山高校	青山高校	○	20-10
9.28	〃	千歳ヶ丘高校	千歳ヶ丘高校	○	8-4
11.03	全国大会予選一回戦	田園調布高校	日大二高グラウンド	○	23-7
11.10	全国大会予選二回戦	大泉高校	大泉高校	●	4-26

○ 最終戦メンバー表

1. 高須(32期)
2. 横山(33期)
3. 野中(32期)
4. 大池(32期)
5. 国守(33期)
6. 森本(32期)
7. 林(31期)
8. 高宮(32期)
9. 樋口(33期)
10. 高橋(31期)
11. 大池(33期)
12. 鈴木(31期)
13. 菅谷(32期)
14. 古川(33期)
15. 堀尾(31期)